

県立伊勢崎特別支援学校 学校評価一覧表 (平成27年度版)

羅 針 盤		達成度			改善状況のまとめ	次年度の課題	
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②			総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	○学校からの通信・連絡帳や面談などによる情報提供に、80%以上の保護者から満足を得ている。 ○学校行事やPTA活動などに参加している保護者が80%以上である。	A	A	A	○学校からの通信・連絡帳や面談などを意欲的に実施し、92%の保護者が学校からの情報提供に満足している。 ○82%の保護者が学校行事やPTA活動に参加している。多くの保護者に参加してもらえるよう、活動内容の周知に努めてきた。	○今後も、通信・連絡帳や面談などとおして、情報提供や相互理解に努める。 ・PTAの各委員会で他の委員会の仕事の様子を知らせたり、PTA総会等で、活度内容をわかりやすく知らせたりする。
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	○「個別の教育支援計画」について80%以上の保護者から、有用であると評価を得ている。 ○40名以上の児童生徒が居住地校交流を実施し、その80%の保護者が満足している。	A	A	A		
II 地域の特別支援に関するセンタースタッフ的な役割を果たしていますか。	3 幼稚園、小・中・高等学校等に在籍する障害のある児童生徒等の教育について、助言援助に努めていますか。	○地域の小中学校等への情報発信として実施する学校公開2回で100名以上、公開研修2回で30名以上の参加がある。 ○昨年度訪問依頼のあった学校を含め、市内小中学校の半数以上から相談依頼がある。	A	—	A	○学校公開2回実施で、164名の参加、公開研修では51名外部参加があった。 ○市内小学校から半数以上の依頼があった。検査中心の依頼が多かった。	○可能な範囲で参加者のニーズに合わせる。実態によって教室内での参観ができるよう職員の共通理解に努める。 ○学級経営の視点での観察・助言に努め、対象の児童生徒の変容につながるケースを増やす。
	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	○「個別の指導計画」の立案・評価では、学年・学部での検討と共通理解とを、年に6回行っている。 ○児童生徒に満足感や達成感が得られるように指導の工夫をしていると80%以上の教職員が答えている。	A	A	A		
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	○「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成している。	A	A	A	○「個別の指導計画」に掲げた目標の80%以上を達成していると評価する保護者が9割近くとなった。	○今後とも目標達成に向けて努力していく。また、指導内容の確実な定着を図るための授業改善に取り組む。
	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	○健康上、配慮の必要な対応について学期に2回以上、面談や連絡ノートなどで保護者と情報交換を行っている。 ○吐物処理方法やてんかん発作時の対応、AEDの使用など職員で学期に1回確認をしていく。	A	A	A	○担任が、面談や連絡ノート等で保護者との情報交換を十分に行い、学部主事・学年主任を軸に、職員の共通理解を図り、支援することで80%以上の保護者の満足を得た。 ○吐物処理方法やてんかん発作時の対応マニュアルを作成。職員に周知徹底を図った。AEDの使用方法は救命講習で確認した。	○健康上、配慮が必要な児童生徒について年度始めに職員へ周知し、共通理解を図る。 ○各マニュアルの周知を、年度の早い時期に行い、児童生徒の支援に活かせるようにする。
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	○地震防災活動マニュアル、不審者対策危機管理マニュアルを検討・作成する。 ○90%以上の教員が、普通救命講習修了証の取得及び更新を目指す。	B	B	B	○地震・火災対応、それに、不審者対応の避難訓練を実施し、危機管理マニュアルの見直しを進めた。 ○ほぼ100%の教員が普通救命講習修了証の取得及び更新をした。	○大災害時での連絡方法等を実際に試行するなどして、よりよい危機管理ができるようにする。 ○来年度も夏季休業7月に、救命講習を計画する。
	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	○外部講師による生徒の学習や教員の研修の機会が3回以上ある。	A	A	A	○生徒の学習として、高等特別支援学校の教員による進路の認識を育む学習会を1回実施した。また、教員の研修として、大学教員によるキャリア教育理解の講演と、卒業生保護者の講話の2回を実施した。	○生徒の学習では、中3生が高等特別支援学校に出向いての作業実習体験を試みる。 ○教員の研修では、有識者によるキャリア教育の実践に関する理解を深める研修を計画する。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	○「進路に関する行事」を年10回以上実施している。	A	A	A	○計画どおり「進路に関する行事」を実施した。また、よりよい進路指導となるよう、係を中心に、キャリア教育全計画案の作成を試みた。	○キャリア教育全体計画を提案し、全校で組織的、系統的に実施できるようにする。
	10 子どもたちの安心・安全の保障を徹底しますか。	○80%以上の来校者が名札の着用をしている。 ○指導上支障がある場面を除き、80%以上の職員が名札を着用している。	A	A	A	○来校者のほとんどの方が名札を着用していただけるようになった。 ○職員が名札着用を励行するとともに、その意味・目的について、保護者や外部に周知した。	○名札着用については、継続して取り組む。 ○子どもたちの安心・安全の保障を徹底するため、様々な切り口からの取り組みを今後も進めていく。
VI 危険な場面をゼロに近づけていますか。							